

コウノトリの郷への発展めざし積極的支援を！

6月議会の一般質問で私は、コウノトリのヒナ誕生と今後の保護策、広島平和記念式典への中学生派遣、農業政策、若者職場定着支援事業、原子力災害対策を取り上げました。

このうちコウノトリについては、全国で最北の地でのヒナ誕生となったことなどから大きな話題となりました。私は、5年間にわたって観察を続けてきた体験に基づき、長年の環境保全型農業の取組がヒナ誕生の背景にあることを指摘し、この取組への積極的支援が「コウノトリの郷」への発展につながると訴えました。以下はその質問の一部です。



【橋爪】5月6日に吉川区内でヒナの誕生を確認し、今月17日には、兵庫県のコウノトリの郷公園の専門家のみなさんから4羽のヒナに個体識別のための足環をつけていただいた。今朝も観察してきたが、昨日よりもヒナたちは元気になった。もう大丈夫。私は5年前の8月17日以来、ずっとコウノトリを追いかけて、観察してきた。特別天然記念物のコウノトリが繁殖の場として、環境保全型の農業を進めている上越市を選んでくれたことをとてもうれしく思う。今後の取組み次第では、この上越市が幸せを運ぶコウノトリの郷として発展する可能性がある。市長が今回のヒナの誕生をどう受け止め、今後どういう保護対策を考えているのか伺いたい。

【中川市長】コウノトリの営巣は当市内では初めてのことであり、コウノトリのふ化も新潟県内初の事例となった。専門家からは、繁殖地点の分布域がこれまでよりも北に大きく拡大した点が評価されている。さらには、同じく特別天然記念

物であるトキの繁殖とコウノトリの繁殖が共に確認されたのは全国で新潟県が初とも聞き知っている。私としては、古くからめでたい鳥「瑞鳥」として愛されてきたコウノトリが、当市を選んでふ化してくれたことは大変喜ばしく、まずは、今回誕生したヒナが無事に巣立ってほしいと願っている。

今後のコウノトリの保護については、引き続き専門家から指導を仰ぐとともに、文化庁や環境省、県などの関係機関とも連携を図りながら、適切に対応してまいりたい。

【橋爪】なぜ、コウノトリがこの上越の地を（繁殖の場として）選んでくれたか。17日、専門家のみなさんが、この場所にエサが十分ある、と言われた点に注目すべきだ。長年、上越市が取り組んできた環境保全型農業、ここに（選んでくれた理由が）あるのではないか。この点、市長は確信を持っておられるか。

【市長】（その点）科学的な分析に学んでいきたいが、この環境を広めていき

たいと思っているので、担当部局と話をしながら政策を進めていきたい。

【佐藤農林水産部長】有機農業は手間がかかる。手間がかかった分だけしっかりと所得に反映されてこそ、その環境が維持されていく。農業者のみなさんと話し合っていきたい。

【橋爪】コウノトリの保護政策を進めていく上で、上越の農業の在り方を特別に重視していく必要がある。ここ数年間にコウノトリを一番見かけたのは頸北だ。ここで5割以上低減栽培が一番進んでいる。だが、面積を増やすにはたいへんだ。これは関係農家の声を聞いてコウノトリの郷になるよう全力をあげてもらいたい。



吉川、安塚、大島でも農地渇水調査

日本共産党議員団は15日、16日と吉川、大島、安塚、牧区の田んぼの水不足実態調査を行いました。牧区は2度目です。安塚、牧は馬場秀幸県議も一緒でした。イラストは安塚区原山での調査。



調査した場所では、1町歩にもわたって代かきできないところや田植後、大きなひび割れが発生しているところがあり、深刻な状況となっていることが分かりました。



17日の午前、コウノトリのヒナたちに足環がつけられました。足環を装着したのは兵庫県豊岡市にあるコウノトリの郷公園のスタッフです。これで、4羽のヒナたちが日本のどこへ飛んで行こうが上越生まれのコウノトリであることがわかるようになります。

【ケンポナシ】（再掲）クロウメモドキ科の落葉高木。漢字で「玄圃梨」と書きます。独特な形をした実の印象が強くて花は忘れていました。こんなにも小さな花が甘い実につながるんですね。花期は6～7月。淡い黄緑色の花です。花言葉は「思いやり」。写真は6月16日、吉川区内にて撮影しました。

はしづめ法一の活動レポート

No.2160 2024.6.23

発行編集 日本共産党上越市議 橋爪のりかず

Tel 025-548-3628

通じないときは 090-5392-1961

E-mail hasiznyg_0808@yahoo.co.jp

URL <https://www.hose1.jp/>



ブログ「ホーセの見である記」はこちら

橋爪法一

検索

春よ来い

第八〇七回

見守り隊

五月二五日の朝、五時四六分でした。布団の中でスマホを操作していたところ、突然、携帯電話が鳴りました。

電話をかけてきたのは、コウノトリの巣のそばの田んぼを耕作しているTさんです。Tさんは私の友人で、気持のやさしい人です。電話は「親鳥が頻繁に下りたり、上がったりのしているけど。エサが足りないんだらうか、それとも何かあったのかね」という問い合わせでした。

身支度をしてから、大急ぎでいつもの撮影場所まで行きました。この場所は、コウノトリの巣から二百五〇ほど離れたところにあります。

三脚を立て、カメラを回し始めました。オスの親鳥が巣の上に立っていて、ヒナたちが巣の中から時々頭を出しています。Tさんからの電話で、「ひよっとしたら、ヒナの一部が巣から落ちたかも知れない」と思っていたこともあって、四羽のヒナたちが無事であるかどうか一番気になりました。「あっ、一羽いる」「二羽目、三番目もいた」ところがもう一羽の姿がなかなか見えません。しばらくして最後の白い頭がかすかに動きました。「おお、いたいた。大丈夫だ。みんないる」。四羽とも顔を上げてからは、動きがとも活発になりました。良かった、良かった。ヒナたちはみんな無事でした。

すぐにTさんのところへ電話を入れました。「大丈夫だったよ。四羽、ちゃんといたよ」と言うと、Tさんも安心したようです。「そりゃ、良かった」と言いました。

私がこの日、撮影場所にいたのは約四〇分です。Tさんからの電話をきっかけに知ったことですが、コウノトリの親子はけっこう早くから動いているんですね。

Tさんが電話で言った、巣から離れ、巣に戻る親鳥の頻繁な動きは、巣のメンテナンス（手直し）の材料運びでした。枯草や

木の枝などを運んでいたのです。

この日、注目したのはヒナも親の巣づくりを手伝っていることです。一羽のヒナが杉の葉が残った枝をくちばしに挟み、動かしている姿にはびっくりしました。ヒナが誕生してからまだ二〇日足らずです。それなのに親と協力して巣の手直しをしている。大したものだと思います。

Tさんからの電話を契機にわかったのは、コウノトリの動きを静かに見守っている人がいることです。それも一人や二人ではありません。近くの田んぼの耕作者、毎日のように望遠鏡で観察を続けているお寺さん、自宅の二階から望遠鏡やカメラのズームを使って見ている人など大勢いることがわかりました。誰かが呼びかけたわけではないのですが、自然にコウノトリの「見守り隊」ができていたのです。強い風が吹いた日、冷たい雨が降った日、三〇度を超える夏日となった時などは、「見守り隊」のみなさんが「コウノトリは大丈夫か」と心配しています。

私も「見守り隊」の一員です。最近はずいぶん、朝の五時半過ぎから三〇分くらいしか見守りができませんが、この時間帯がまたいいのです。親鳥がエサ探しから戻って、ヒナたちに与えるときはとても賑やかです。ウグイスなどの小鳥たちも毎日やってきて、さえずります。そして、お寺の鐘の音や防災無線から時報も聞こえてくる。このゆったりとした時間の流れは素敵です。

コウノトリのヒナたちは六月一七日、兵庫県豊岡市の「コウノトリの郷公園」からやって来た専門家のみなさんによって足環をつけてもらいました。もう二〇日ほどすればヒナたちは巣立ちを迎えます。高い電柱の巣の上から最初に飛び立つには勇気がいるはずですが、飛ぼうとして、戻る。また挑戦する。その繰り返しの中で飛び立った時には拍手を送りたい。

吉川小学校で牛の入学式

市立吉川小学校において先日、牛さんの入学式が行われました。

入学式を迎えたのは、今年の5月1日、糸魚川市で生まれた乳牛のメスです。

入学式では仔牛の世話をする1年生が、「牛さんが来るのを楽しみにしていました」「早く仲良くなりたいです」「きょうから、牛さんのお父さん、お母さんになります」とのべていました。最初、児童はびくびく



しながら接していましたが、徐々に慣れ、仔牛の体に触ったり、なでたりできるようになりました。

入学式が終わって、1年生がみんないなくなったら、仔牛は、「モー」と鳴きました。やはり、さみしいのかな。イラストは校庭にある「牛の住まい」に初めて入った仔牛と1年生のみなさん（一部）です。仔牛はなかなか正面を向いてくれませんでした。久しぶりに牛を描いたら、大きな牛（成牛）になってしまいました（笑）。



【朝市で頑張る人たち】今回は三ハ市で花などを売っている細川康子さんです。野の花を中心として花に詳しい方です。



上越地域各消防署における空間放射線量率測定結果

測定は毎日午前9時。数値はマイクロシーベルト。1時間当たりの測定量です。

消防署によると、通常は1時間当たり0.016~0.16μSv(マイクロシーベルト)だとのこと。

	6月5日(水)	6月19日(水)
上越南消防署	0.053	0.050
上越北消防署	0.047	0.040
新井消防署	0.040	0.050
頸北消防署	0.057	0.053
頸南消防署	0.067	0.060
東頸消防署	0.047	0.047
名立分遣所	0.057	0.057
高士分遣所	0.053	0.053

春よ来い

第八〇七回

見守り隊

五月二五日の朝、五時四六分でした。布団の中でスマホを操作していたところ、突然、携帯電話が鳴りました。

電話をかけてきたのは、コウノトリの巣のそばの田んぼを耕作しているTさんです。Tさんは私の友人で、気持のやさしい人です。電話は「親鳥が頻繁に下りたり、上がったりのしているけど。エサが足りないんだらうか、それとも何かあったのかね」という問い合わせでした。

身支度をしてから、大急ぎでいつもの撮影場所まで行きました。この場所は、コウノトリの巣から二百五〇ほど離れたところにあります。

三脚を立て、カメラを回し始めました。オスの親鳥が巣の上に立っていて、ヒナたちが巣の中から時々頭を出しています。Tさんからの電話で、「ひよっとしたら、ヒナの一部が巣から落ちたかも知れない」と思っていたこともあって、四羽のヒナたちが無事であるかどうか一番気になりました。「あっ、一羽いる」「二羽目、三番目もいた」ところがもう一羽の姿がなかなか見えます。しばらくして最後の白い頭がかすかに動きまわりました。「おお、いたいた。大丈夫だ。みんないる」。四羽とも顔を上げてからは、動きがとて活発になりました。良かった、良かった。ヒナたちはみんな無事でした。

すぐにTさんのところへ電話を入れました。「大丈夫だったよ。四羽、ちゃんといたよ」と言うと、Tさんも安心したようです。「そりゃ、良かった」と言いました。

私がこの日、撮影場所にいたのは約四〇分です。Tさんからの電話をきっかけに知ったことですが、コウノトリの親子はけっこう早くから動いているんですね。

Tさんが電話で言った、巣から離れ、巣に戻る親鳥の頻繁な動きは、巣のメンテナンス（手直し）の材料運びでした。枯草や

木の枝などを運んでいたのです。

この日、注目したのはヒナも親の巣づくりを手伝っていることです。一羽のヒナが杉の葉が残った枝をくちばしに挟み、動かしている姿にはびっくりしました。ヒナが誕生してからまだ二〇日足らずです。それなのに親と協力して巣の手直しをしている。大したものだと思います。

Tさんからの電話を契機にわかったのは、コウノトリの動きを静かに見守っている人がいることです。それも一人や二人ではありません。近くの田んぼの耕作者、毎日のように望遠鏡で観察を続けているお寺さん、自宅の二階から望遠鏡やカメラのズームを使って見ている人など大勢いることがわかりました。誰かが呼びかけたわけではないのですが、自然にコウノトリの「見守り隊」ができていたのです。強い風が吹いた日、冷たい雨が降った日、三〇度を超える夏日となった時などは、「見守り隊」のみなさんが「コウノトリは大丈夫か」と心配しています。

私も「見守り隊」の一員です。最近はずいぶん、朝の五時半過ぎから三〇分くらいしか見守りができませんが、この時間帯がまたいいのです。親鳥がエサ探しから戻って、ヒナたちに与えるときはとても賑やかです。ウグイスなどの小鳥たちも毎日やってきて、さえずります。そして、お寺の鐘の音や防災無線から時報も聞こえてくる。このゆったりとした時間の流れは素敵です。

コウノトリのヒナたちは六月一七日、兵庫県豊岡市の「コウノトリの郷公園」からやって来た専門家のみなさんによって足環をつけてもらいました。もう二〇日ほどすればヒナたちは巣立ちを迎えます。高い電柱の巣の上から最初に飛び立つには勇気がいるはずですが、飛ぼうとして、戻る。また挑戦する。その繰り返しの中で飛び立った時には拍手を送りたい。

蛍の里、大島で今年も音楽ライブ



大島区の大島地区で8日に開催された「音楽ライブ in ほたるの里」に行ってきました。



【朝市で頑張る人たち】今回は三八市で花などを売っている細川康子さんです。野の花を中心として花に詳しい方です。

オープニングは大島小学校児童による「雪割太鼓」の演奏。予行演習の段階から見でしたが、いつも通り、とても元気な演奏でした。その後は上教大の吹奏楽団の演奏です。「ぼよよん行進曲」や「おどるポポコリン」などを聴きました。手拍子も入り、観客と一体の演奏でした。もうこのライブには絶対欠かせない楽団となりましたね。

この日も最後は大島区ソング、「蛍の里」で締めました。上のイラストは上教大の演奏を聴く人たちと「蛍の里」をリードする人たちです。

ニュースフラッシュ

上越地域各消防署における空間放射線量率測定結果

測定は毎日午前9時。数値はマイクロシーベルト。1時間当たりの測定量です。

消防署によると、通常は1時間当たり0.016~0.16μSv(マイクロシーベルト)だとのこと。

	6月5日(水)	6月19日(水)
上越南消防署	0.053	0.050
上越北消防署	0.047	0.040
新井消防署	0.040	0.050
頸北消防署	0.057	0.053
頸南消防署	0.067	0.060
東頸消防署	0.047	0.047
名立分遣所	0.057	0.057
高士分遣所	0.053	0.053